

令和 7 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 2 月 20 日

札幌市立 新琴似北中学校

1 新琴似北中学校区における学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	挨拶と言葉で未来を拓く新琴似の子	教職員の連携・協働 学びのつながり 指導の連続性 子ども理解の共有	B	挨拶は本校生徒はよくできているが、言葉による表現については、新琴似北中学校において大切な重点項目であり、継続的な指導で改善を図りたい。また、新琴似西小や新琴似緑小との連携という点では課題が残る。挨拶や言葉について更に意識を高めるとともに、さつぽろっ子サミットに向けた取組との連携も強化したい。	A	A
今年度の重点	・研究会・授業参観での授業共有・児童の実態共有 ・身に付けておきたい知識や技能・生活習慣の共有		B	札幌教研春の研究会で、小中学校の職員で授業づくりや振り返りを行い、互いの指導方法のよさや課題について共有できた。困り感をもつ児童については、これまで同様、小中間での引継ぎを丁寧に行っていく。身に付けておきたい知識や技能、生活習慣については、今後、テーマをしばりながら、職員間、児童生徒間で共有を図る手立てを講じる。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		自己評価の結果および、日頃の教育活動の参観を通じ、教職員が組織一丸となって「目指す子ども像」、「今年度の重点」の具現化に努めていることを高く評価する。特に、研究会・授業参観での授業共有は着実な成果を上げており、児童・生徒への指導力向上に繋がっている。今後も、現在の良好な教育環境を維持しつつ、地域との連携をさらに深めることで、より開かれた学校づくりを推進されたい。				

2 新琴似北中学校における学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	(1) 全ての生徒にとって「通いたい学校」「安心して通える学校」の創造 (2) 健やかな「からだところ」の育成 (3) 小中一貫、地域連携の広がりや深化を図る		B	生徒、保護者ともに学校評価アンケートでは「毎日の学校生活が楽しい。」の肯定的回答が80%を超えている。 一方、「体調管理に気を付けながら体を動かす機会の確保に努めている。」の肯定的回答は生徒は80%以上だが、保護者は70%台にとどまり、「学級・学校に安心・安全に落ち着いて生活できる雰囲気がある。」の肯定的回答は生徒、保護者ともに70%台である。今まで以上に健康管理を啓発するとともに、シャボテンログの活用や教育相談の充実を図るなどして、安心・安全に生活できる環境づくりに努めていきたい。 「地域で子どもたちを育てる」という視点に立ち、小中一貫、地域連携の深化を図ってきたい。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		保護者との連携は個人情報の保護や守秘義務など難しい面もあると思われる。努力を評価したい。				

人間尊重の教育	「自分が大切にされている」と実感できる「人間尊重」の教育	笑顔・挨拶・思いやり	A	生徒の学校評価アンケートで「自分や友達の良いところを見つけてながら、その良さを発揮できるように意識して生活できたか。」の肯定的回答は80%程度、保護者の学校評価アンケートで「お子さまは多様性を認め合い、自他の良さを発揮できるように心の成長を感じたことがあるか。」の肯定的回答は85%以上である。引き続き、笑顔・挨拶・思いやりに溢れる学校を目指しつつ、お互いの存在を認め合う雰囲気を高めていきたい。	A	A
「学ぶ力」の育成	子どもが主語の授業～協働的な学びによる学ぶ力の育成～	協働的に学ぶ力(対話・他者承認・自己承認)	B	生徒の学校評価アンケートで「授業は分かりやすいか。」の肯定的回答は85%程度、「ICT機器の導入は学習の理解に役立っていると思うか。」の肯定的回答は90%程度であり、ICTを活用しつつ、仲間と協力しながら学ぶ姿勢が身に付けてきているといえる。しかし全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果からも、授業で学んだことを次の学習に生かすことや日常の家庭学習の取組には課題が見られる。自ら学ぶ姿勢を更に高められるように努めていく必要がある。	A	A
「豊かな心」の育成	多様性を認め合い自他の命を大切に する教育の充実	自己肯定感・仲間意識・相互承認	A	授業評価アンケートで「道徳の授業は面白い」が85%程度、「道徳の授業は分かりやすい」が90%程度と肯定的回答の割合が高めであり、道徳性を養う基礎ができてきたと考えられる。本校生徒会で提唱している「北中ハートフル宣言」の精神の理解を深めるなどしながら、更に仲間意識や相互承認の感度を高めていけるように努めたい。	A	A
「健やかな体」の育成	体力向上と心身の健康増進を目指す取組の推進	①体育・保健体育等の授業の充実 ②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組 ③子どもが自らの健康の保持増進を図る取組	B	生徒の学校評価アンケートで「体調管理に気を付けながら体を動かす機会の確保に努めている。」の肯定的回答は80%以上だが、新校舎改築工事によりグラウンドが使用できない状況のため、保健体育の授業の更なる工夫や昼休みにおける体育館遊びの場の設定などを通じて、運動機会を創出してほしい。また、保体常任委員会と連携し、体を動かす機会の確保や健康管理への意識向上を図りたい。	A	A
いじめ対策	いじめをしない・許さない学校づくり	・早期発見 ・いじめ対策委員会 ・悩みやいじめに関するアンケート ・教育相談、期末懇談 ・シャボテンログの活用	B	月1回のいじめ対策委員会にはSSWやSCも参加し、全校のいじめの実態を把握するとともに、対応策を考えいじめの深刻化を防止した。また、学校独自の悩みやいじめに関するアンケートを実施し、早期発見とときの細やかな対応に努めた。シャボテンログの活用などで、生徒一人一人の心身の状況把握に努めていきたい。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		全員が同じように理解できる授業はどんな工夫があっても難しいと考えるので、工夫があることが大事。生徒の自発性は3年間の積み重ねがあっても結果はすぐに出ないだろう。かなり後に期待するものである。 いじめの未然防止や不登校生徒への組織的な対応について、教職員間の情報共有が適切に行われていると判断できる。今後、SNS上のトラブルや多様化する教育課題への対応力をさらに強化するため、専門機関との連携を強化するとともに、教職員の研修機会の確保にも注力されたい。				